令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大谷場小学校 ）　　学校番号　０１５

学校教育目標	ひとみ輝く子の育成
目指す学校像	「笑顔あふれる学校」～子ども一人ひとりの輝く瞳と笑顔の実現に向け、児童、教職員、保護者、地域の方々が自ら多様な個性を生かしながら学び、協働する学校～

重点目標	1　自立した学習者の育成による笑顔あふれる学校の実現 2　児童が楽しく落ち着いて生活できる場・機会の創出 3　保護者や地域の学校づくり参画意識の高揚 4　安心・安全な学校 5　人材育成と服務規律の確保

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

【様式】

達成度	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価

年度目標				年度評価			学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和８年２月６日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上に関する取組	〈現状〉 ○児童の学校評価で「進んで学習している」の「そう思う」の回答が他と比べてやや低い。 ○保護者向け学校評価の結果から、「家庭でもタブレットを使って学習している」の肯定的な割合が他の項目と較べて低い。 〈課題〉 ○児童が進んで学習に取り組むための個別最適な学びの研修を進めていく。 ○学習者用端末の持ち帰りと併せて、家庭の端末等で課題に取り組めるようにする	・自立した学習者の育成	①学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」による学習や個別最適な学び・探究的な学びの授業を行う。（随時） ②授業や家庭での調べ学習やドリルパークなどでの復習、探究的な学びにタブレットを活用する。（毎週） ③児童が学習の進め方を自己決定できる場面を作る。（学期１回）	・児童の学校評価「進んで学習している」の「そう思う」の回答を 75%(R6 70%) ・保護者の学校評価「主体的に学習に取り組む」の肯定的な回答 80%(R6 72%)	・学びのポイントによる学習は、自己評価シートの目標にするなど取組む教員が見られた。個別最適な学びは、学校課題研究として全員で研修を進めた。タブレットの活用や授業中の自己決定の場面など授業実践する姿が見られた。 ・児童の学校評価「進んで学習している」の「そう思う」の回答は、58%、保護者の学校評価「主体的に学習に取り組む」の肯定的な回答72%になり、目標値の 8～9 割の達成だった。	A	・来年度は、児童用パソコンの機種の入れ替えがあるため、教員の研修に加え、個別最適な学びと協働的な学びにおけるタブレットの活用を推進したい。	・デジタルだけの指導ではなく、教育長の挨拶にもあるように人と接するなどリアルも大切にしてほしい。
		・授業力を高める教職員研修	①学校課題研究で個別最適な学びの授業研究を行う。（毎学期） ②市教委より指導主事を指導者に招聘し、指導を受ける。（毎学期）	・学校課題研究で指導主事を指導者とする授業研究会を年間３回実施する。（R6 ０回）	・学校課題研究で個別最適な学びの研修を進め、年間４回授業研究会を開催し、指導主事より指導を受け、授業力を高めた。	A	・授業力を高めるため、校内研究授業に市教委から指導主事を指導者として招聘することも継続したい。	
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	〈現状〉 ○児童会のあいさつやいじめの防止の取組など児童が主体的に取り組む姿が見られる。 ○利用する児童が少ないため、Sola るーむの利用法が確立されていない。 〈課題〉 ○児童が安心して先生や保護者に相談できるようにする。 ○Sola るーむについて、いつでも利用できるように利用法等を決める。	・児童が楽しく落ち着いて生活できる場の創出	①児童を褒める場面を設け、自己肯定感を高める。（随時） ②あいさつやいじめ防止のキャンペーンを児童中心に行う。（学期１回）	・「落ち着いて生活できる」の「そう思う」の回答 60%(R6 52%)	・代表委員を中心にあいさつ運動やいじめ防止の取組を行うことができた。 ・児童の「落ち着いて生活できる」の「そう思う」の回答 51%で目標値の８割だった。	A	・児童が楽しめる行事やあいさつ運動を保護者や地域の方と協働できるようにしたい。	・Sola るーむの利用のルール等について確認したい。 →部屋の場所や室内の様子など説明した。現在の利用児童はいないことも伝えた。
		・児童が相談できる場の創出	①心と生活のアンケート・おはようメーター等により児童の悩みを早期に発見し、面談するなど相談できるようにする。（随時） ②Solaるーむや児童の居場所や体制のルールを決める。（7 月末）	・児童の学校評価「悩んでいることを相談できる」の肯定的な回答 85%(R6 82%)	・心と生活のアンケート・おはようメーター等により児童の悩みを早期に発見するよう努めた。Sola るーむ利用のルールを決めた。 ・児童の「悩んでいることを相談できる」の肯定的な回答 87%で目標を達成した。	A	・引き続き、悩みやいじめの早期発見・早期対応を行っていく。 ・Sola るーむの利用のルールは決まったので、人の配置について検討していく。	
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	（現状） ○防犯や環境整備など保護者や地域が非常に協力的である。 ○保護者や地域の学校評価アンケート「学校に行きたい」「学校づくりに参画したい」と感じている方の割合が半数を超えている。 （課題） ○行事等の公開をしているが、児童の様子などを知らせる学校ＨＰの活用が必要と思われる。 ○保護者や地域が学校づくりに参画できるようにする。	・学校の様子を発信	①ホームページで児童の様子を発信して保護者・地域に知らせる。（週１回） ②保護者の参画意識を高めるため、授業や行事を公開する。（各学期） ③ＳＳＮ協議会や学校運営協議会、学校だより等で学校の様子を地域へ発信する。(随時)	・学校が保護者へ授業を公開する機会を９回提供する。 ・地域へ学校の様子を発信する。	・ホームページで児童の様子の配信や学校だよりによる学校の取組の発信など実施できた。 ・保護者の学校への参画意識を高めるための学校公開を年間９回実施できた。	A	・来年度も児童の様子や学校の取組をホームページや学校だより以外でも発信できるようにしたい。 ・学校公開を今年度と同様に実施し、保護者からの意見を下に改善を図っていく。	・学校評価の保護者の参画する機会を提供しているかの肯定的意見が少ないのはどうしてか。 →学校が保護者の参画という周知が足りないので改善を図る。
		・保護者や地域の学校づくり参画機会の創出	①懇談会や学校評価等で保護者や地域の意見から改善を検討する。（随時） ②児童会の活動を学校運営協議会で報告し地域と協働する。（年３回）	・保護者や地域の学校評価「学校づくりに参画したい」の肯定的な回答保護者 70%(R6 64%)，地域 80 %(R6 74%)	・学校評価の「学校づくりに参画したい」の肯定的な回答保護者 77%，地域 86%で目標を達成した。	A	・来年度も学校運営協議会に児童を参加させ、地域の方と協働できる内容を協議していきたい。また、ＰＴＡや青少年育成会との連携も図っていきたい。	
4 教育環境の整備に関する取組	〈現状〉 ○４月末現在、いじめ案件が数件、長欠児童も数人いる。 ○毎年、不良個所を修繕し、児童への清掃指導を行っているが、廊下や階段のゴミが目立つ。 〈課題〉 ○学校が綺麗で生活しやすい環境を整えるため、児童への清掃指導の充実と保護者との協働による環境整備を行い、児童、教員、保護者が一緒になって、学校美化に取り組んでいく。 ○予算会議を開き、学校予算を計画的、効果的に執行することが必要である思われる。	・安心安全な学校	①保護者や地域と連携した環境整備を行い、安心安全な学校を作る。（随時） ②おはようメーターや心と生活のアンケートで児童の状態を把握する（毎回） ③校長が登校時の通学路の安全点検、安全指導を児童の安全を確保する。（随時）	・保護者と地域の学校評価「安心・安全な学校」の肯定的な回答 95%以上(R6 保護者 96% 地域 95%)	・地域のボランティアの方による環境整備や全保護者による輪番制の校内見回りは、実施できた。 ・11 月からの校長の登校指導は、体調不良で実施できなかった。 ・学校評価「安心・安全な学校」の肯定的な回答 93%で目標値の９割だった。	A	・来年度も保護者や地域の方と協力して安心安全な学校を目指していく。 ・スクールダッシュボードを活用し、児童が安心して学習に取り組める環境を整えていく。	・他校では早朝の預かりや子ども食堂の話を聞くがどうか。 →今年度、家庭の都合で一時的に、早めの登校を希望するのが１件あったが、学年等で対応した。現在はない。 ・管理棟のトイレは、避難所であるので早急に改修してほしい。
		・予算の適切な活用	①校長が安全点検の結果や職場環境アンケートから修繕を検討する。（毎月） ②予算の執行計画を確認し、予算内で効果的に活用する。（随時）	・学校予算の執行状況を確認する。（毎月）	・毎月の安全点検の結果については、事務職員や用務担当が確認し修繕を行った。 ・年度当初の職場環境アンケートから職員トイレの改修を市教委に相談したが、まだ改修されていない。	B	・来年度も早期修繕になるように、修繕費の計画的な活用と用務担当の修繕で環境整備を行っていく。 ・緊急性の高い修繕は、市教委と相談して整備を進めていく。	
5 教職員のキャリア形成に関する取組	〈現状〉 ○教職員の学校評価で授業実践・カリマネのほぼ達成（８割）が 16%と他よりやや低い。 ○教職経験の少ない 5 年次以下と臨任の教員が約半数いる。 ○市内市立学校で教職員の不祥事が起きている。 〈課題〉 ○研修により教職員のキャリアに合わせた指導力と専門性を高める。 ○教職員の不祥事防止のため、チェックシートや研修を行う。	・キャリアアップにつなげる研修	①教室訪問や授業研究会での指導により、教員の指導力を高める。（随時） ②当初面談や達成状況面談時にキャリア段階に応じた研修や専門教科高める研修の参加について指導する。（年２回）	・教職員全員の 12 月末の研修件数が昨年度の 5%増（143 件　R6 137 件）。	・授業研究会や面談時の専門性に関する助言により一人ひとりのキャリアアップを図ることができた。 ・教職員全員の 12 月末の研修件数が昨年度の 201 件で昨年度より 46%増で大幅に増加した。	A	・来年度も、キャリアステージに合った研修や専門性を指導し、一人ひとりの能力を高めていく。 ・研修会への参加を促し、全市的や他校の取組を共有できるようにしたい。	・定時退勤日は、教員の家族との時間をもってほしいので、仕事を持ち帰らないように指導したほうが良い。
		・働きがいのある職場づくり	①業務改善により働きがいのある職場をつくる。（随時） ②不祥事防止等チェックシートや研修により、教職員の規範意識を高める。（毎月）	・教職員の学校評価「働きがい」に関する肯定的な回答 95%(R6 92%)	・月 1 回の定時退勤日の設定やＩＣＴの活用、集金の振込など業務改善を進めた。 ・毎月のチェックシートや教職員事故の新聞記事により規範意識を高めた。 ・学校評価「働きがい」に関する肯定的な回答 85%で目標値の９割だった。	B	・教員のキャリアアップのための研修会の紹介等も積極的に声をかけていきたい。 ・業務量管理・健康確保措置を推進していく。	